

# 研究紀要

## 第32号

中井遺跡における縄文中期の食用植物について  
—レブリカ法による土器種実圧痕の同定—

上野真由美  
佐々木山香

網目状撚糸文の観察（1）

魚水 環

古墳時代前期の「外來系木製品」について  
—反町遺跡出土の籠と籠脚をめぐって—

福田 聖

埼玉県における古墳時代前期の玉作り

赤熊 浩一

焼失住居から見る古墳時代前期の植物利用

滝澤 誠

高橋 敦

後・終末期群集墳と集落の展開について  
—日沼古墳群と横野地北遺跡の関係—

青木 弘

須恵器工人の瓦づくり—泥条盤築技法導入の背景—

星間 孝志

ほるたまセミナー特別講演録  
「東国の出現期古墳と大和政権」

大塚 初重

2018

公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

## 図絵 2



1



2



3



4

桑中遺跡

1. 1号住居 2. 4号住居(肩部片) 3. 15号住居 4. 21号住居

1~3は45x、4は20x



5



6



7



8

稻荷台遺跡

5. 38号住居 6. 43号住居 7. 49号住居  
8. 51号住居 9. 53号住居

富田後遺跡

10. 16号周溝状遺構

11. D区26号周溝状遺構

12. E区4号井戸跡

白井沼遺跡

13. 3号周溝 14. 6a号溝



9



10

5・12は20x、10・11は30x、  
6~8は40x、9・13・14は50x



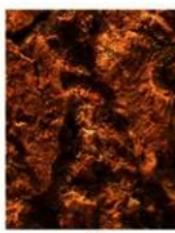
11



12



13



14

網目状燃糸文の拡大写真

(魚水 網目状燃糸文の観察)

# 目 次

口絵

序

- 中井遺跡における縄文中期の食用植物について ..... 上野真由美・佐々木由香 (1)  
—レプリカ法による土器種実圧痕の同定—
- 網目状撚糸文の観察 (1) ..... 魚水 環 (13)
- 古墳時代前期の「外来系木製品」について ..... 福田 聖 (21)  
—反町遺跡出土の籠と籠脚をめぐって—
- 埼玉県における古墳時代前期の玉作り ..... 赤熊 浩一 (33)
- 焼失住居から見る古墳時代前期の植物利用 ..... 滝澤 誠・高橋 敦 (45)
- 後・終末期群集墳と集落の展開について ..... 青木 弘 (61)  
—目沼古墳群と横野地北遺跡の関係—
- 須恵器工人の瓦づくり—泥条盤築技法導入の背景— ..... 昼間 孝志 (79)
- ほるたまセミナー特別講演録「東国の出現期古墳と大和政権」 ..... 大塚 初重 (93)

# 網目状撚糸文の観察（1）

魚水 環

**要旨** 古墳時代前期の壺や高环に施文される「網目状撚糸文」と通称される文様について、北本・桶川・上尾・川島の各市町域の出土遺物を集成し、代表的な遺跡について顕微鏡で観察を行った。その結果、①網目状撚糸文の施文具に大別してA：無節の糸を使うものB：単節の糸を使うものC：糸を使用しないものの3種類が存在すること、②使用される原体は遺跡ごとに偏った傾向を示すことが明らかになった。

## 手法と目的

現在の荒川中流域にあたる大宮台地西岸や、対岸の自然堤防上では、それまでの時代に比べて弥生後期～古墳前期に遺跡数が著しく増加することが知られている。これらの諸遺跡のうち、筆者は過年度に楽中遺跡（魚水 2017）の報告書整理に携わった。満足な報告ができたとは現在も思わないが、いくつかの知見は得られることができたと考えている。本稿では、楽中遺跡出土の古墳時代初頭の土器を実見して得られた知見を紹介し、またそれを基に、遺跡周辺の様相について実際に遺物を実見し、観察結果を述べてみたい。具体的には、①網目状撚糸文の施文具にA：無節のものB：単節のものC：撚糸によらない斜格子文の3つの種類があると考えられること、②遺跡（集落）によって使用する原体に偏りが見られることについて検証していきたい。また、今後調査範囲を拡大し、時期・地域によって差異が見られるか等を考えていくための端緒としたい。

さて、前述の地域においては、網目状撚糸文は五箇式期の古段階に主として複合口縁壺の口縁外面や肩部にしばしば見ることができる（例：第1図1）。網目状撚糸文自体は特段に珍しいものということではなく、遅くとも弥生終末期には南関東に広く見ることができる。施文具については、大村直が房總半島の山田橋式について述べる中で網

目状撚糸文について「山田橋大山台遺跡の安房形は、（中略）そのほとんどが付加条3種の可能性が高い」とし（大村 2009）、轟直之は「付加条3種の系譜も下総台地に求められる可能性がある」（轟 2015）とする。かつて篠原和大はS字状結節文を持つ文様に施文具の差から2系統があるとし、関東平野に異なる技術的系譜を持つ文化圏が存在するとした（鮫島 1994）が、例えば同様の現象が網目状撚糸文では見られないだろうか、と考えたことが本稿の着想に至った経緯である。

## 網目状撚糸文の観察

今回、楽中遺跡周辺の桶川市・上尾市・北本市、あるいは川島町の荒川中流域諸遺跡で見られる網目状撚糸文を持つ土器（土器片）を蒐集したところ、21遺跡から81点を抽出することができた（表1）。同一個体と思われるものもあるが、機械的に数えれば81点中72点と九割近くが壺に施文されている。次いで5点も小型壺への施文で、強く壺を意識された文様であることが窺える。この一方、4点と少数だが高环に施文される例も複数存在している。

壺への施文については、小型壺や壺型土器も含めれば、口縁部が残っているものが40点あり、このうち複合口縁壺が32点と八割を占める。これ以外の8例は單口縁に施文されているが、これ

は上尾市稻荷台遺跡 10 号住居跡（第1図3）の例のように口縁が低く、球形胴を呈するものと、楽上遺跡試掘調査（第1図2）のように口縁が高く、胴部下半に最大径が見られるものとに二分されるようである。高環への施文については、いずれも口縁外面の最上部に1段のみ施文されている。高環への施文における伝統的な規範が網目状撚糸文にも適応されていると考えられるだろう（第1図20～22）。

本稿では 81 点のうち比較的多量の網目状撚糸文が検出された富田後遺跡と稻荷台遺跡、白井沼遺跡、また筆者が報告書作成を担当した楽中遺跡について土器を実見し、それぞれの撚糸圧痕について観察を行った結果を記載する。なお、各遺物の撚糸圧痕は 0.5mm に満たない細いものが多く、肉眼での観察は困難であったため、今回の観察および撮影には USB 顕微鏡 UK-02 を用いた。

#### 楽中遺跡

大宮台地西岸の、江川右岸上に立地する。江川右岸上では砂ヶ谷戸 I 遺跡から楽上 II、楽上遺跡までの集落位置の遷移が想定され、周辺域の中心的集落と想定されている（吉川他 1977）が、網目状撚糸文は砂ヶ谷戸 I 遺跡で 2 点、楽上遺跡で 1 点が出土するのみである。その楽上遺跡から 600m ほど下流側に位置する楽中遺跡では 5,030 m が調査され、網目状撚糸文が 7 点出土している。口縁部片（複合口縁）3 点、肩部片 3 点、頸部片 1 点で、肩部片 1 点は報告書非掲載資料である。

1・4号住居跡のもの（第1図4・5）は、報告書では「撚りが観察されず、撚糸原本の単位が確認できないことから、網目状撚糸文を模して櫛状工具痕を交差させた文様」としたが、今回の撮影では双方とも撚糸圧痕（無節 r）が確認された（口絵2-1・2）。したがって報告書の記述は正確ではない。撚りは観察可能な 6 点中 5 点が無節 r で、唯一 15 号住居跡出土のもの（第1図7）のみが無節 I であった（口絵2-3）。一方、21号

住居跡（第1図8）および非掲載資料には単節 R が見られる（口絵2-4）。器面の劣化によりやや不明瞭であるが、粒状の圧痕を見て取ることができる。節の有無にかかわらず、原本はいずれも短軸絡条体第5類と思われるが、肩部など曲面に施文されていることから軸は棒状でない可能性もある。これは 4 号住居跡出土の口縁部片に、施文の起点になるとみられる痕跡が多数残ることからも想定できる。撚糸文の条の太さは最も細いもので 0.4mm、最も太いものでも 0.6mm 程度と非常に細い。

#### 稻荷台遺跡

大宮台地西岸の、荒川に臨む台地上に立地する。現在までに 4 次にわたる調査で約一万 m<sup>2</sup> が調査されており、これは周辺の諸遺跡の中でも有数の規模である。規模に応じるように網目状撚糸文は 11 点が出土しており、隣接する薬師耕地前遺跡も含めれば 16 点を数え、そのすべてが壺である。薬師耕地前遺跡で方形周溝墓から出土した 2 点を除いては住居跡からの出土である。内容はほぼ完形のものが 2 点、上半が残るもの 3 点、口縁部片（複合口縁）3 点、肩部片 8 点である。稻荷台遺跡内で網目状撚糸文が出土した住居跡は北側より南側へ偏って分布しており、集落の移り変わり（石坂 2000）を想定する上では集落の開始からやや遅れた段階に位置づけられるであろう。書上元博が設定した編年（書上 1994）上においては第1段階（後）に相当する。

実見できた 9 点のうち、撚糸圧痕が確認されたのは 7 点で、そのすべてが無節 I であった。圧痕が確認できなかった 2 点のうち、53 号住居跡出土のもの（第1図13・口絵2-9）は器面の劣化が見られないにもかかわらず、撚糸圧痕が全く観察されず、網目を形作る線もランダムなため、撚糸文ではなく斜格子文であろうと思われる。条の太さは条線によって 0.33 ~ 1.5mm と幅があるが、起因するものは不明である。

### 富田後遺跡

大宮台地から荒川を挟み、対岸に形成された微高地に立地する。旧河道の激しい蛇行によって形成された自然堤防上には、富田後遺跡の他にも尾崎遺跡や元宿遺跡、後述する白井沼遺跡等が形成されており、この時期に旧河道の低地を目指して集落が進出してきた様相が見て取れる。発掘調査面積は 9,900m<sup>2</sup>に及び、この周辺の荒川右岸では有数の規模である。網目状撚糸文は 14 点が出土している。壺が 10 点、壺型土器が 3 点、高坏が 1 点であるが、壺型土器は壺に近い形状のものが 1 点見られる（第 1 図 17）。網目状撚糸文は富田後遺跡のⅠ期～Ⅱ期（鈴木 2011）にかけて一定期間存続するようで、文様壺の消長を示すかのように施文が乱れた網目状撚糸文も井戸跡等から出土している。部位としては、壺の完形品が 2 点、口縁部片が 8 点（計 10 点とも複合口縁）壺型土器は小型壺に 2 点完形品がある（うち複合口縁は 1 点）。

実見できたのは 14 点中 13 点で、このうち撚糸圧痕が確認できたのは 10 点である。6 点が無節 I、2 点が無節 r で、非常に不明瞭ながら単節 I が疑われるものが 16 号周溝状遺構（第 1 図 14・図版 2-10）と 6 号方形周溝墓から 1 点ずつあった。撚糸文の条の太さは、0.3mm ときわめて細いものから 0.7mm 程度のものまで見られるが、0.5mm 以下の非常に細いものが 11 点と多く見られる。

### 白井沼遺跡

富田後遺跡と同様に、荒川右岸の自然堤防上に立地する。3 次にわたる調査で、合計 8,700m<sup>2</sup> の面積が調査されている。網目状撚糸文は 14 点出土しているが、第 1・3 次調査範囲（6,700m<sup>2</sup>）からは 1 点、第 2 次調査範囲（2,000m<sup>2</sup>）からは 13 点と遺物の分布に差が見られる。14 点の内訳はすべて壺で、口縁部片 7 点（うち複合口縁 6）、肩部片 7 点（註 1）がある。

実見できたのは 14 点中 12 点で、このうち撚糸圧痕が確認できたのは 11 点である。6 点が無節 I、2 点が無節 r と思われ、さらにやや不明瞭ながら単節 R と思われるものも 3 点確認された。単節 R と思われる撚糸圧痕をもつ 6a 号溝出土遺物（第 1 図 19）については、第 2 図 14 に図示した。撚糸文の条の太さは、おおむね 0.3–0.5mm の範囲に収まるもので、いずれも細い。

### まとめ

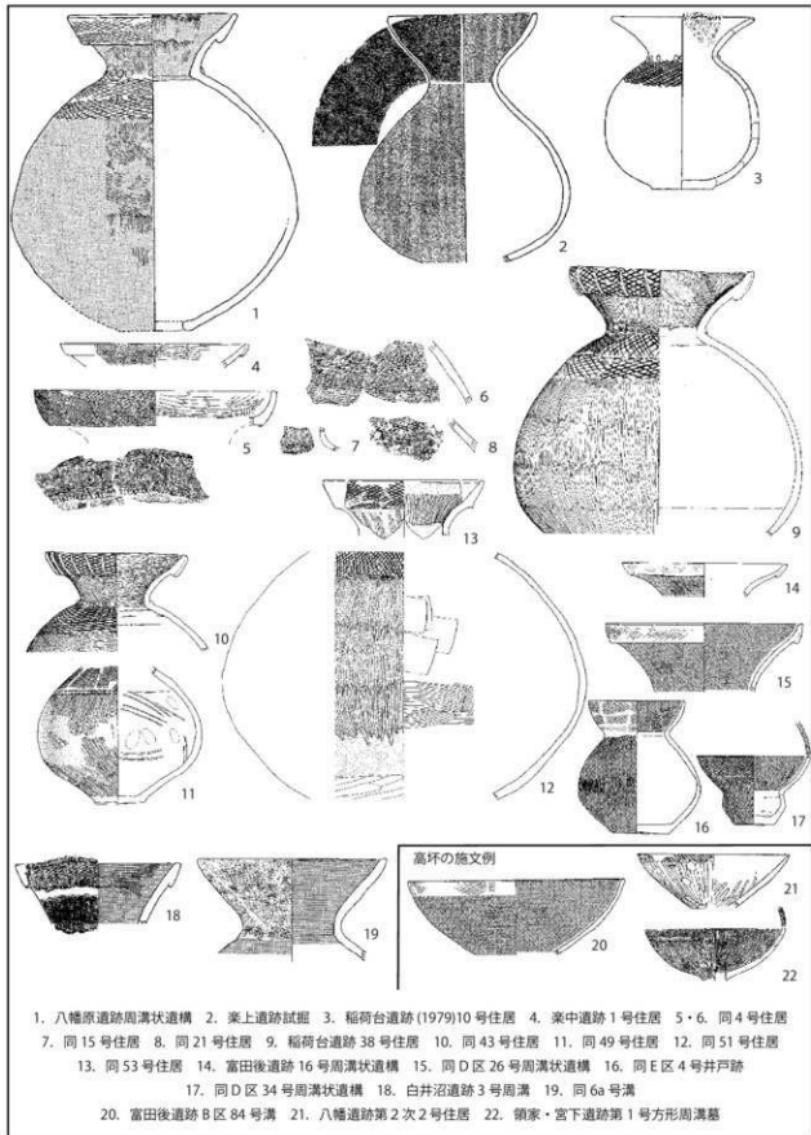
撚糸圧痕を観察できた 38 点のうち、無節 I は 22 点、無節 r は 8 点、疑い含む単節 L は 2 点、疑い含む単節 R は 5 点、斜格子文は 1 点という結果を得ることができた。有意な情報を得るには未だ調査数が僅少であるが、少なくとも種類の異なる原体が存在することは示せたように思う。

また、楽中遺跡では無節 r が殆どであるのに対し、稲荷台遺跡ではすべてが無節 I、富田後遺跡では無節 I を中心に無節 r と単節 L、白井沼遺跡では無節 I を中心に無節 r と単節 R と集落によつて使用する原体に異なる傾向が見られることも母数が少ないなりには示せたように思う。

網目状撚糸文の原体を制作するにあたり、巻き付ける条は無節で十分作成可能（註 2）であり、単節である必要はない。単節の条を作成する必要を考えるならば、繩文の表現の一種と捉えることもできようが、1mm にも満たない太さの「繩文」にそのような意味を持たせることができるかは疑問ではある。

本稿では対象をきわめてローカルな範囲に限定し、さらに出品を基に検討を行った。文様としての網目状撚糸文は、弥生時代終末から古墳時代前期後葉まで見られるものであり、一時的なものとは言えない期間で継続する。その意味で本稿は時間的観点に欠けるものとなっている。次回以降に整理したい。

今後は検討の地理的範囲を広げ、さらに多くの点数を対象として網目状撚糸文について観察と思



第1図 荒川中流域の網目状撚糸文 ( $S = 1 : 5$ )

考を行っていきたい。

註1 このうち、同一個体が疑われるものが2点ある。

註2 節を作らずとも燃りがかかり、糸として成立するも

の、具体的な材料としては大麻や苧麻が想定される。いっぽう節のあるものについては、材料の想定はできない。

## 引用文献

- 上尾市 1992『上尾市史 第1巻(資料編1原始・古代)』
- 上尾市稲荷台遺跡調査会 1979『上尾市稲荷台遺跡』
- 石坂俊郎 2000『稲荷台遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第239集
- 石坂俊郎・閔根訪 2004『北原遺跡第1次発掘調査報告書』
- 磯崎一・中山浩彦 2005『白井沼遺跡I』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第315集
- 磯野治司 1997『阿弥陀堂遺跡第1・2次調査』北本市埋蔵文化財調査報告書第6集
- 磯野治司他 1994『八重塚遺跡』北本市埋蔵文化財調査報告書第1集
- 磯野治司・齊藤成元 2009『八幡遺跡第2次調査・中井遺跡第2次調査・下宿遺跡第5次調査』北本市埋蔵文化財調査報告書第17集
- 今井正文・早坂廣人 1990『西I遺跡』下日出谷西遺跡群発掘調査会
- 岩崎義信 2003『右燃り・左燃り一繩文の土器文様と紐の燃り一』長井市古代の丘資料館(長井市教育委員会)
- 魚水環 2017『楽中遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第429集
- 大村直 2009『久ヶ原式と山田橋式』『南関東の弥生土器2~後期土器を考える~』六一書房
- 書上元博 1994『稲荷台遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第139集
- 栗岡潤 2007『白井沼遺跡II』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第328集
- 栗林洋子・赤石光資 1986『兩沼I遺跡』上尾市文化財調査報告第27集
- 小宮山克巳 2007『領家・宮下遺跡-第1~3次調査-』上尾市文化財調査報告第82集
- 飯島和大 1994『南関東弥生後期における繩文施文の二つの系統』『東京大学文学部考古学研究室研究紀要』第12号
- 鈴木孝之 2011『富田後遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第385集
- 鈴木孝之 2009『元宿遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第365集
- 閔根訪 1991『平成3年度桶川市遺跡発掘調査報告書』桶川市教育委員会
- 閔根訪 2001『平成13年度桶川市内遺跡発掘調査報告書 砂ヶ谷戸I遺跡第3次調査』桶川市教育委員会
- 轟直行 2015『弥生時代後期における下総台地の影響について』『列島東部における弥生後期の変革~久ヶ原・弥生町期の現在と未来~』六一書房
- 永久保I遺跡発掘調査会 2000『永久保I遺跡第1次発掘調査報告書』
- 野村侃司・赤石光資 1978『樂師耕地前遺跡』上尾市文化財調査報告第4集
- 氷川前遺跡発掘調査会 1991『氷川前遺跡発掘調査報告書』
- 藤沼昌泰 2005『平成17年度桶川市内遺跡範囲確認調査報告書』
- 藤沼昌泰・小川真 2011『平成23年度桶川市内遺跡範囲確認調査報告書』
- 村山卓 2016『大平遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第424集
- 吉川國男他 1977『砂ヶ谷戸I・II遺跡 楽上遺跡』桶川市文化財調査報告書第9集
- 吉見昭・齊藤成元 2003『八幡遺跡:個人専用住宅建設関係埋蔵文化財発掘調査報告書』北本市埋蔵文化財調査報告書第13集

第1表 荒川中流域の網目状燃糸文集成

No.	遺跡名	遺跡の場所	遺構	図版番号	施文部分	器種	燃糸の太さ (mm)	燃糸の 方向	原体の 回転方向	報告書	刊行 年次
1	野吉遺跡	上尾市野吉		市史 378 図 5	口縁端部	壺		横	(機細) 極細第一女子高 (資料) 上尾市史		1964
2	福井台遺跡 1 次	上尾市西貝塚	10 号住	第 36 図 2	口縁内面 肩部	壺		L	横	上尾市福井台遺跡調査会	1979
3	福井台遺跡 1 次	上尾市西貝塚	13 号住	第 42 図 2	口縁外面	壺		横		上尾市福井台遺跡調査会	1979
4	福井台遺跡	上尾市西貝塚	26 号住	第 14 図 1	肩部	壺	0.39	I	横	事業団報告書第 139 集	1994
5	福井台遺跡	上尾市西貝塚	38 号住	第 37 図 1	口縁端部 口縁外面・肩部	壺	1.5	I	横 (口縁・肩部) 縱 (肩上段)	事業団報告書第 139 集	1994
6	福井台遺跡	上尾市西貝塚	41 号住	第 41 図 2	肩部	壺	0.43	I	横	事業団報告書第 139 集	1994
7	福井台遺跡	上尾市西貝塚	43 号住	第 46 図 1	口縁外面 肩部	壺	0.55	I	横	事業団報告書第 139 集	1994
8	福井台遺跡	上尾市西貝塚	43 号住	第 46 図 2	肩部	壺	0.58	I	横	事業団報告書第 139 集	1994
9	福井台遺跡	上尾市西貝塚	48 号住	第 69 図 1	口縁内面 肩部	壺	0.65	I	横 (口縁) 縱 (肩部)	事業団報告書第 139 集	1994
10	福井台遺跡	上尾市西貝塚	49 号住	第 73 図 2	肩部	壺	0.33	I	縱	事業団報告書第 139 集	1994
11	福井台遺跡	上尾市西貝塚	51 号住	第 80 図 1	肩部	壺	0.7	?	縱	事業団報告書第 139 集	1994
12	福井台遺跡	上尾市西貝塚	53 号住	第 82 図 1	口縁外面	壺		斜格子文	横?	事業団報告書第 139 集	1994
13	美師耕地前遺跡	上尾市西貝塚		第 9 図 8	肩部	壺			横?	上尾市文化財調査報告第 4 集	1978
14	美師耕地前遺跡	上尾市西貝塚		第 9 図 9	肩部	壺			横?	上尾市文化財調査報告第 4 集	1978
15	美師耕地前遺跡	上尾市西貝塚		第 9 図 11	口縁外面	壺			横	上尾市文化財調査報告第 4 集	1978
16	美師耕地前遺跡	上尾市西貝塚	2 号方堀	第 13 図 4	口縁端部 口縁外面 頭部~肩部	壺			縱・横	上尾市文化財調査報告第 4 集	1978
17	美師耕地前遺跡	上尾市西貝塚	4 号方堀	第 20 図 2	肩部	壺			縱?	上尾市文化財調査報告第 4 集	1978
18	雨沼 I 遺跡	上尾市平方字雨沼	1 号住	第 14 図 6	肩部	壺			横?	上尾市文化財調査報告第 27 集	1986
19	雨沼 I 遺跡	上尾市平方字雨沼	13 号住	第 53 図 5	肩部	壺?			横?	上尾市文化財調査報告第 27 集	1986
20	領家・宮下遺跡	上尾市領家字宮下	遺構外	第 17 図 116	肩部	壺			横	上尾市文化財調査報告第 82 集	2007
21	領家・宮下遺跡	上尾市領家字宮下	13 号住	第 62 図 40	肩部	壺			横	上尾市文化財調査報告第 82 集	2007
22	領家・宮下遺跡	上尾市領家字宮下	13 号住	第 62 図 44	肩部	壺			縱?	上尾市文化財調査報告第 82 集	2007
23	領家・宮下遺跡	上尾市領家字宮下	23 号住	第 71 図 23	口縁外面	高环			横	上尾市文化財調査報告第 82 集	2007
24	領家・宮下遺跡	上尾市領家字宮下	15 号住	第 75 図 38	口縁外面	壺			横	上尾市文化財調査報告第 82 集	2007
25	領家・宮下遺跡	上尾市領家字宮下	15 号住	第 75 図 39	肩部	壺			横	上尾市文化財調査報告第 82 集	2007
26	領家・宮下遺跡	上尾市領家字宮下	15 号住	第 75 図 47	口縁端部 口縁外面	高环			横	上尾市文化財調査報告第 82 集	2007
27	領家・宮下遺跡	上尾市領家字宮下	1 号方堀	第 14 図 40	肩部	壺			横	上尾市文化財調査報告第 82 集	2007

No	遺跡名	遺跡の場所	遺構	図版番号	施査部分	器種	遺物の太さ (mm)	標示の 方向	原体の 回転方向	報告書	刊行 年次
28	御家・宮下遺跡	上尾市御家字宮下	I号方墳	第14図41	肩部	壺			横	上尾市文化財調査報告第82集	2007
29	大平	桶川市川田谷字大平	グリッド	第85図1	肩部	壺	0.44	r	横	事業用報告書第424集	2016
30	北原遺跡	桶川市川田谷字北原	1号住	第6図7	肩部	壺			縦か?	北原遺跡第1次発掘調査報告書	2004
31	北原遺跡	桶川市川田谷字北原	1号住	第6図8	肩部	壺			縦か?	北原遺跡第1次発掘調査報告書	2004
32	砂ヶ谷戸I遺跡	桶川市川田谷字地神	3号地下式壙	第15図6	口縁外面	壺型土器			横	平成3年度桶川市遺跡発掘調査報告書	1991
33	砂ヶ谷戸I遺跡	桶川市川田谷字地神	3号住か	第12図52	肩部?	壺?			横	平成13年度桶川市内蔵跡発掘調査報告書	2002
34	永久保I遺跡	桶川市川田谷字永久保	2号住	第11図3	頭部	壺			横	永久保I遺跡第1次発掘調査報告書	2000
35	八幡原遺跡	桶川市川田谷字東台	難溝状遺構	第7図5	口縁外面	壺			横	平成17年度桶川市内蔵跡発掘調査報告書	2005
36	八幡原遺跡	桶川市川田谷字東台	難溝状遺構	第8図1	口縁外面・肩部	壺			横	平成17年度桶川市内蔵跡発掘調査報告書	2005
37	氷川前遺跡	桶川市川田谷字氷川前	1号溝	第15図28	肩部	壺			横	氷川前遺跡発掘調査会	1991
38	葉上遺跡	桶川市川田谷字葉上	試掘	第46図3	口縁端部・口縁外面	壺型土器			縦	平成23年度桶川市内蔵跡発掘調査報告書	2011
39	葉中	桶川市川田谷字葉中	1号住	第72図1	口縁端部	壺	0.44	r	横・縦	事業用報告書第429集	2017
40	葉中	桶川市川田谷字葉中	4号住	第76図1	口縁端部	壺	0.3	r	横	事業用報告書第429集	2017
41	葉中	桶川市川田谷字葉中	4号住	第76図10	肩部	壺	0.38	r	横	事業用報告書第429集	2017
42	葉中	桶川市川田谷字葉中	15号住	第84図3	頭部	壺	0.38	l	縦	事業用報告書第429集	2017
43	葉中	桶川市川田谷字葉中	21号住	第89図1	肩部	壺	0.4	R?	横	事業用報告書第429集	2017
44	葉中	桶川市川田谷字葉中	グリッド	第103図4	口縁外面	壺	?	?	横	事業用報告書第429集	2017
45	葉中	桶川市川田谷字葉中	グリッド	非開闢	肩部?	壺?	0.4	R?	横	事業用報告書第429集	2017
46	西I遺跡	桶川市下日出谷字西	1号住	第10図1	口縁外面	壺			横	下日出谷西遺跡群発掘調査会	1990
47	西I遺跡	桶川市下日出谷字西	5号住	第11図25	口縁外面	壺			横	下日出谷西遺跡群発掘調査会	1990
48	白井沼1	川越町白井沼	1号周溝	第11図7	肩部	壺	0.44	l	横	事業用報告書第315集	2005
49	白井沼1	川越町白井沼	1号周溝	第11図8	肩部	壺	0.41	l	横	事業用報告書第315集	2005
50	白井沼1	川越町白井沼	1号周溝	第11図9	肩部	壺	?	?	横	事業用報告書第315集	2005
51	白井沼1	川越町白井沼	1号周溝	第11図10	肩部	壺	?	?	横	事業用報告書第315集	2005
52	白井沼1	川越町白井沼	1号周溝	第13図54	肩部	壺	0.47	l	横	事業用報告書第315集	2005
53	白井沼1	川越町白井沼	2号周溝	第15図18	口縁外面	壺	0.51	l	横	事業用報告書第315集	2005
54	白井沼1	川越町白井沼	3号周溝	第17図1	口縁端部・口縁外面	壺	0.46	l	横	事業用報告書第315集	2005

No	遺跡名	遺跡の場所	遺構	図版番号	施文部分	器種	遺物の 大きさ (mm)	標示の 方向	原体の 回転方向	報告書	刊行 年次
55	白井沼 I	川島町白井沼	4号土壙	第33図94	肩部	直?	0.5	r?	横	事業簿報告書第315集	2005
56	白井沼 I	川島町白井沼	38号土壙	第37図242	口縁端部 ・口縁外面	直	0.46	I	横	事業簿報告書第315集	2005
57	白井沼 I	川島町白井沼	6a号溝	第43図6	口縁外面	直	0.43	R	横	事業簿報告書第315集	2005
58	白井沼 I	川島町白井沼	6a号溝	第43図12	口縁外面	直	0.277	?	横	事業簿報告書第315集	2005
59	白井沼 I	川島町白井沼	6a号溝	第43図13	肩部	直	0.47	R?	横	事業簿報告書第315集	2005
60	白井沼 I	川島町白井沼	39号溝	第46図102	口縁外面	直	0.3	R?	横	事業簿報告書第315集	2005
61	白井沼 II	川島町白井沼	1号井戸跡	第60図1	口縁外面	直	0.44	r	横	事業簿報告書第328集	2007
62	富田後	川島町三保谷宿	3号周溝状	第39図4	口縁外面	直	0.58	I	横	事業簿報告書第385集	2011
63	富田後	川島町三保谷宿	10号周溝状	第109図13	口縁外面	直	0.36	?	横	事業簿報告書第385集	2011
64	富田後	川島町三保谷宿	16号周溝状	第117図1	口縁外面	直	0.25	L?		事業簿報告書第385集	2011
65	富田後	川島町三保谷宿	25・28号周溝	第131図2	口縁外面	直	0.48	?	横	事業簿報告書第385集	2011
66	富田後	川島町三保谷宿	25・28号周溝	第131図3	口縁外面	直	0.49	r		事業簿報告書第385集	2011
67	富田後	川島町三保谷宿	34号周溝状	第143図11	口縁端部 ・口縁外面	直型土器	0.39	I	横	事業簿報告書第385集	2011
68	富田後	川島町三保谷宿	16号周溝状	第208図1	口縁外面	小型直	0.28?	?		事業簿報告書第385集	2011
69	富田後	川島町三保谷宿	5号方溝	第225図11	口縁外面	直			横	事業簿報告書第385集	2011
70	富田後	川島町三保谷宿	6号方溝	第231図3	口縁外面	直	0.33	L?		事業簿報告書第385集	2011
71	富田後	川島町三保谷宿	9号井戸跡	第314図49	口縁外面・肩部	直	0.44	I	横	事業簿報告書第385集	2011
72	富田後	川島町三保谷宿	1区4号形便	第319図123	口縁端部 ・口縁外面	小型直	0.33	r	横	事業簿報告書第385集	2011
73	富田後	川島町三保谷宿	1区7号形便	第320図131	口縁端部 ・口縁内面	直	0.7	I	横	事業簿報告書第385集	2011
74	富田後	川島町三保谷宿	1区7号形便	第320図132	口縁外面	直	0.42	I	横	事業簿報告書第385集	2011
75	富田後	川島町三保谷宿	34号溝	第377図16	口縁外面	高环	0.34	I	横	事業簿報告書第385集	2011
76	元宿	川島町三保谷宿	1号方溝	第80図5	口縁外面 ・肩部?	直	0.6	?		事業簿報告書第365集	2009
77	元宿	川島町三保谷宿	S087	第252図237	肩部	直	0.52	I	横	事業簿報告書第365集	2009
78	八重塚遺跡	北本市荒井6丁目	2号柱	第32図3	肩部	直		I	横	北本市埋蔵文化財調査報告書第1集	1994
79	八幡塚遺跡	北本市高尾6丁目	4号柱	第21図4	肩部	直			横	北本市埋蔵文化財調査報告書第17集	2003
80	八幡塚遺跡	北本市高尾6丁目	2号柱	第8図10	口縁外面	高环			横	北本市埋蔵文化財調査報告書第17集	2009
81	阿佐記堂遺跡	北本市高尾6丁目	グリッド	第19図11	肩部	直			横	北本市埋蔵文化財調査報告書第6集	1997

## 研究紀要 第32号

2018

平成30年3月13日 印刷

平成30年3月16日 発行

発行 公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

〒369-0108 熊谷市船木台4丁目4番地1

<http://www.saimaibun.or.jp>

電話 0493-39-3955

印刷 関東図書株式会社